

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ☒ 印を記入する。

工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市伊原間カンテン250-7	図面名称	増配舎：構造設計標準仕様
発注機関	公益財団法人 沖縄農業振興公社	縮 尺	NO SCALE
摘 要		図面番号	S—01
	設 計	名 称	有限会社 朝吹設計事務所
	資 格 者 氏 名	管理建築士 朝吹 一郎	
	登録番号	1第建築士 第 114962 号 登録番号 第 331-1792 号	
着 所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32		

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

構造関係共通事項

- 総 則
- 1 適用範囲
- (a) 構造関係共通図（配筋標準図）は、鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
- (b) 構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。
- (c) 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）以外については、図面及び監督職員の指示による。
- 2 優先順位
- (a) 設計図書間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1. 建築工事特記仕様書（構造関係）
 2. 図面
2-1 下記 2-2 以外の図面
2-2 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）
 3. 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下「標準」という。）
- 3 用語の定義
- (a) 異形鉄筋の径（本文、図、表において「 d 」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
- (b) 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

構造関係共通図（配筋標準図）

1 一般事項

- (a) 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。なお、異形鉄筋の径（本文、図、表において「 d 」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
- (b) 有害な曲がり又は損傷のある鉄筋は、使用しない。
- (c) コイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
- (d) 鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アークスライクを起こしてはならない。

2 加工

- (a) 鉄筋の切断は、シャーカッター等によって行う。
- (b) 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
- (1) 柱の四隅にある主筋（図2.10●）で、重ね継手の場合及び見上隅の柱頭にある場合
 - (2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出現及び下隅の両端（図2.10●）にある場合（基礎梁を除く）
 - (3) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
 - (4) 鉄筋のベース筋
 - (5) 帯筋、あばら筋及び幅止の筋

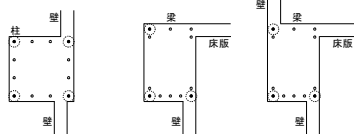


図2.1 異形鉄筋の末端部にフックを付ける場合

- (c) 鉄筋の折曲げ形状及び寸法は、表1による。

折曲げ 角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径(D)		
		SD295A SD295B、 以下	SD345 D19 ～D38	SD390 D19 ～D38
180°		4d以上		
135°		4d以上		
90°		3d以上	4d以上	5d以上
135° 及び 90° (幅止め筋)		4d以上	4d以上	4d以上

- (注) 1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。

3 組 立

鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスプーサー、吊金物等を使用して行う。

なお、スプーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスプーサーは、原則として、鋼製とする。また、鋼製のスプーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。

4 継手及び定着

- (a) 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手又は溶接継手とし、適用は特記による。
- (b) 鉄筋の継手位置は、特記による。
- (c) 鉄筋の重ね継手は、次による。
- なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (1) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。耐力壁の鉄筋の重ね継手の場合、特記がなければ、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と表2の重ね継手長さのうち大きい値とする。
 - (2) (1)以外の鉄筋の重ね継手の長さは、表2による。

鉄筋の 種類	表2 鉄筋の重ね継手の長さ		
	コンクリートの 設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_{11} (フックなし)	L_{11H} (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24、27	35d	25d
	30、33、36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24、27	40d	30d
	30、33、36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24、27	45d	35d
	30、33、36	40d	30d

- (注) 1. L_{11} 、 L_{11H} ：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の L_{11H} は、図1に示すようにフック部分も含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。

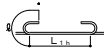


図1 フックありの場合の重ね継手の長さ

- (d) 隅り合う継手の位置は、表3による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。なお、先組工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一面所に設ける場合は、特記による。

重ね 継手	表3 隅り合う継手の位置	
	フックありの場合	フックなしの場合
圧接 継手		
機械 式継 手		

- (e) 鉄筋の定着は、次による。

- (1) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、表4により、適用は特記による。
- (2) (1)以外の鉄筋の定着の長さは、表4により、適用は特記による。

柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さは、[S-06.2]による。

梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

表4 鉄筋の定着の長さ									
鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	フックなし			フックあり				
		L ₁	L ₂	L ₃	L _{1H}	L _{2H}	L _{3H}		
SD295A SD295B	18	45d	40d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	小梁 スラブ		
	21	40d	35d		30d	25d			
	24, 27	35d	30d		25d	20d			
	30, 33, 36	35d	30d		25d	20d			
SD345	18	50d	40d		35d	30d		10d	—
	21	45d	35d		30d	25d			
	24, 27	40d	35d		30d	25d			
	30, 33, 36	35d	30d		25d	20d			
SD390	21	50d	40d		35d	30d		30d	25d
	24, 27	45d	40d		35d	30d			
	30, 33, 36	40d	35d	30d	25d				

- (注) 1. L_{11} 、 L_{11H} ：2. 以外のフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ
2. L_{12} 、 L_{12H} ：貫入破壊のおそれない箇所へのフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ。
3. L_{12} ：小梁及びスラブの下端筋のフックなし直線定着の長さ。ただし、基礎附近スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L_{11H} ：小梁の下端筋のフックあり直線定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、図2に示すようにフック部分 を含む。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートを使用する場合は、表4の値に5 dを加えたものとする。

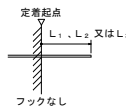


図2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

- (3) 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さとし、表4のフックあり定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、図3により、次の(i)、(ii)及び(iii)を全て満足するものとする。
- (i) 全長は、(a) (1)又は(a) (2)の直線定着長さ以上とする。
- (ii) 余長は6d以上とする。
- (iii) 仕口面から鉄筋外周までの投影定着長さ L_a 及び L_b は、表5に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

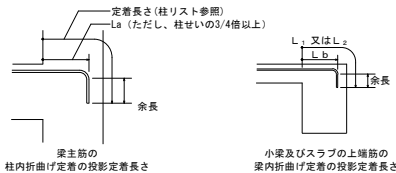


図3 折曲げ定着の方法

鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 F_c (N/mm ²)	表5 鉄筋の投影定着長さ	
		L_a	L_b
SD295A SD295B	24、27	18	20d
		21	15d
		30、33、36	15d
		18	20d
SD345	24、27	21	20d
		30、33、36	15d
		21	20d
		24、27	20d
SD390	24、27	21	20d
		30、33、36	20d

- (注) 1. L_a ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む）
2. L_b ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持小梁及び片持スラブを除く）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。

- (f) その他の鉄筋の継手及び定着は、次による。

- (1) 溶接金網の継手及び定着は、図4による。
- なお、 L_2 及び L_3 は表4の（注）による。

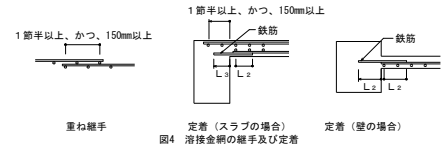


図4 溶接金網の継手及び定着

- (2) スパイラル筋の継手及び定着は、図5による。

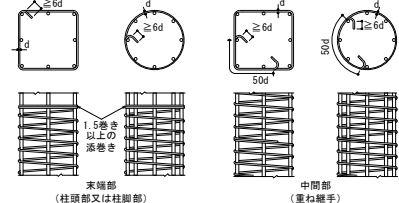


図5 スパイラル筋の継手及び定着

5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表6による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

土に接する柱の側面は、10mm以上の打増しを行い、設計かぶり厚さを確保させること。

部 位	表6 鉄筋および溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）	
	最少かぶり 厚さ(mm)	設計かぶり 厚さ(mm)
土に接し ない部分	耐力壁以外の壁又は床	屋外 20
		屋内 30 (1)
	耐力壁、柱又ははり	屋外 30
		屋内 40 (1)
土に接する 部分	壁、柱、床、はり又は基礎の立上り部分	40*
	基礎（立上り部分および捨てコンクリート部分を除く）	50*

- (注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は構造図による。
2. (1) モルタル塗り等の仕上がりのあるもので鉄筋の耐久性上有効な仕上げが施している場合にあっては、最少かぶり厚さを10mm減らすことができる。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さは、捨コンクリートの厚さを含む。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、構造図による。

- (b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10 mmを加えた数値を標準とする。
- (c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- (d) 鉄筋相互のあきは図6により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合は、構造図による。
- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
 - (2) 25 mm
 - (3) 隅り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍



図6 鉄筋相互のあき

- (e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄筋とのあきは（d）による。
- (f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは（c）による。

伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原岡カシニ250-7	図面名称	増記：鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	NOSCALE
摘 要	図面番号	S— 02	
		設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所
		資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
		登 録 番 号	1級建築士 第 114962 号 登録番号 第 133-1792 号
所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32		

有限会社 長崎総合設計 長崎 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
一般建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

各部配筋 参考図

各部配筋参考図は、寸法の統一による設計の質の確保及び能率の向上並びに積算及び施工における業務の簡素化を図るものとして、各部配筋を特記する際に必要な事項を参考図として示すものである。
なお、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）５章において特記することとしている各部配筋は、構造計算等に基づき適切に特記する必要がある。

1節 基礎及び基礎梁の配筋

- 1.1 直接基礎の配筋 ※S-06(2)参照
- 1.2 基礎接合部の配筋 ※S-06(2)参照
- 1.3 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

【※】梁主筋の柱内定着長は、[S-06.2]による。

(a) 一般事項

- (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。
- (2) 梁筋を柱内に定着する場合は、3.1(a)(2)による。

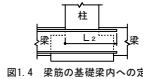
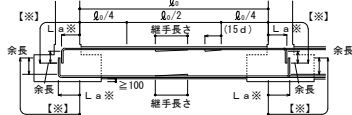


図1.4 梁筋の基礎梁内への定着

(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、3.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※L aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

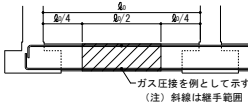
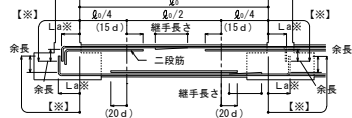


図1.5 主筋の継手、定着及び余長（その1）

(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、3.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※L aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

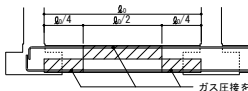
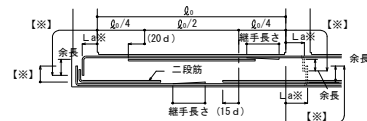


図1.6 主筋の継手、定着及び余長（その2）

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、3.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※L aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

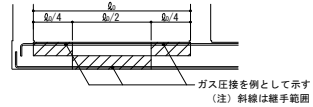


図1.7 主筋の継手、定着及び余長（その3）

1.4 基礎梁のあばら筋

あばら筋組立の形及びフックの位置は、3.2(a)による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図1.8によることができる。

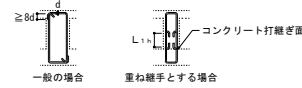


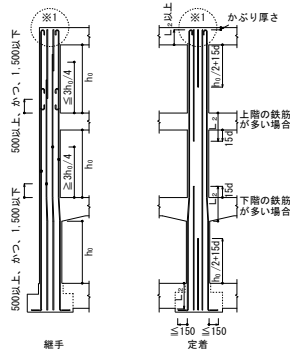
図1.8 あばら筋組立の形及びフックの位置

2節 柱の配筋

2.1 柱主筋の継手、定着及び余長

(a) 一般事項

- (1) 継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3h/4（hは柱の内法高さ）以下とする。
- (2) 継手、定着及び余長は図2.1による。ただし、柱頭定着長さL2を確保できない場合は、構造図による。



- (注) 1. 柱の隅隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上層の柱頭にある場合には、フックを付けない。
2. 隅り合う継手の位置は、(表3)による。
3. 継手及び定着は、すべての隅に適用できる。

図2.1 柱主筋の継手、定着及び余長

※1 柱頭部主筋の納まりは、[S-06.3.1]および柱リストによる。

2.2 帯筋組立の形及び割付け

- (a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による
- (b) 帯筋組立の形は図2.2により、適用は構造図による。

- (1) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
- (2) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
- (3) S P形において、柱頭及び注目の端部は、1.5倍以上の巻きを行う。

(c) フック及び継手の位置は交互とする。

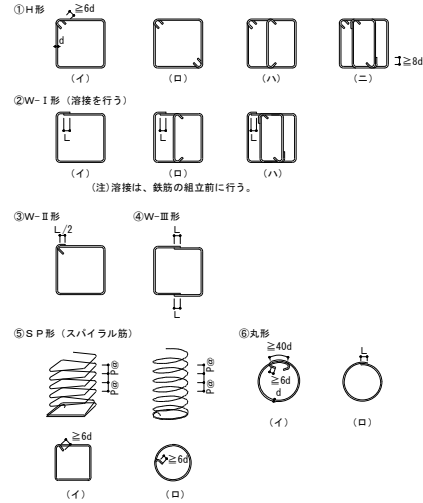
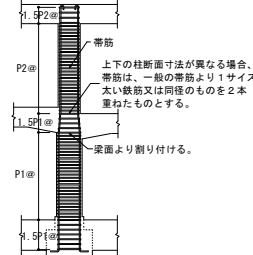


図2.2 帯筋組立の形

(d) 帯筋の割付けは、図2.3とし、それ以外の場合は構造図による。



- (注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じ。
2. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1@又は1.5P2@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお、P1@、P2@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図2.3 帯筋の割付け

2.3 柱の打増し部 ※S-06(4)参照

3節 梁の配筋

3.1 大梁（5.1基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び余長

【※】梁主筋の柱内定着長は、[S-06.2]による。

(a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- (1) 梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数の時は、柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図3.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。



図3.1 梁主筋の梁内定着

(2) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

なお、定着の方法は、S-02.4(e)(3)による。

上端筋：曲げ降ろす。

下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。

下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。

(3) 段違い梁は、図3.2による。

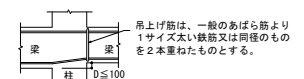
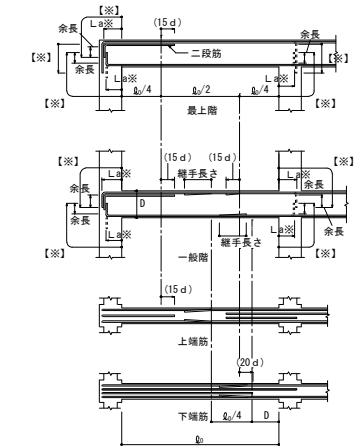


図3.2 段違い梁

(4) 継手中心位置は、次による。

上端筋：中央 $\frac{h}{2}$ 以内下端筋：柱面より梁せいの(D)以上とし、 $\frac{h}{4}$ を加えた範囲以内

(b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の隅端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※L aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

図3.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

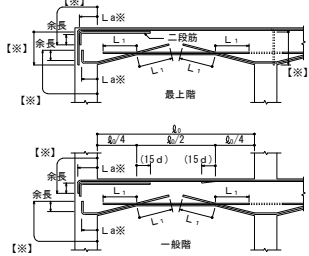
伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カニン250-7	図面名称	増設：鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	MOSCALE
		図面番号	S— 03
摘 要	設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所	
	資 格 者 氏 名	管理建築士 朝吹 一郎	
	登 録 番 号	1級建築士 第 114962 号 登録番号 第 133-1792 号	
	所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32	

有限会社 長崎総合設計 長崎 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（3）

(c) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、.....のように引き通すことができる。
4. 基礎は、柱内定着の場合を示す。
※Lの値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

図3.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

3.2 あばら筋（1.4基礎梁のあばら筋以外に限る）の組立の形及び割付け等

(a) あばら筋組立の形及びフックの位置

- (1) 形は、図3.5(イ)とする。ただし、L形の場合は(ロ)又は(ハ)、T形の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。

(2) フックの位置

- (イ) (イ)の場合は、交互とする。
(ロ) (ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
(ハ) (ハ)の場合は、スラブの付く側を90°折曲げとする。

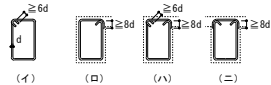
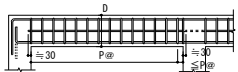


図3.5 あばら筋組立の形

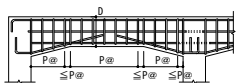
(b) あばら筋の割付け

(1) 間隔が一律でハンチのない場合



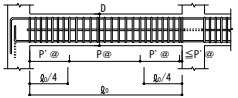
- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。
図3.6 あばら筋の割付け（その1）

(2) 間隔が一律でハンチがある場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。
図3.7 あばら筋の割付け（その2）

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中P@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。
図3.8 あばら筋の割付け（その3）

(c) 腹筋及び幅止め筋

- (1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
(2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10～1,000mm程度とする。

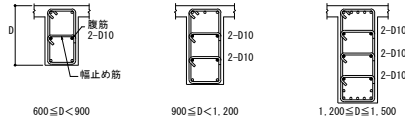
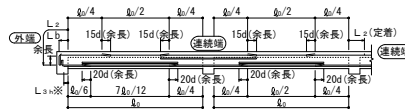


図3.9 腹筋及び幅止め筋

3.3 梁の打増し補強 ※S-06(4)参照

3.4 小梁主筋の継手、定着及び余長

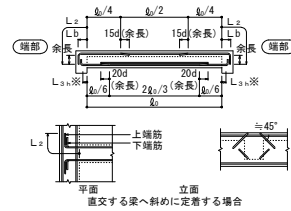
(a) 連続小梁の場合



- (注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、1.3及び3.11に準ずる。
※Lを確保できない場合は、(S-02、4 (e) (3))によりすることができる。

図3.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

(b) 単独小梁の場合

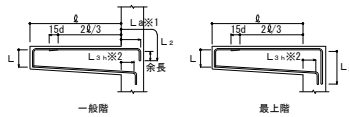


- (注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、1.3及び3.11に準ずる。
※Lを確保できない場合は、(S-02、4 (e) (3))によりすることができる。

図3.11 単独小梁の場合の断面図を示す

3.5 片持梁主筋の継手、定着及び余長

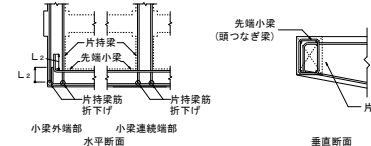
(a) 先端に小梁のない場合



- (注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 先端の折曲げの長さLは、梁せいかぶり厚さを除いた長さとする。
3. 図示のない事項は、3.11による。
※1. Lの値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
※2. Lを確保できない場合は、(S-02、4 (e) (3))によりすることができる。

図3.12 片持梁主筋の定着

(b) 先端に小梁がある場合



- (注) 1. 図示のない事項は、(a)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図3.13 片持梁主筋の定着

4節 壁及びその他の配筋

4.1 壁の配筋

(a) 壁の基準配筋は構造図による。

4.2 壁の継手及び定着

(a) 一般事項

- (1) 壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、重ね継手長さをL1、定着長さをL2とする。
(2) 幅止め筋は、縦横ともD10～1,000mm程度とする。
(3) 打増し部分に、壁及びスラブ筋等が取り付けく場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。
(注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

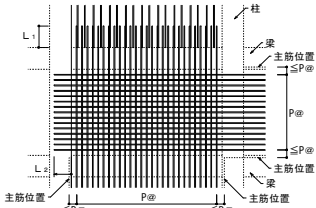


図4.1 壁の配筋

4.3 壁の交差部及び端部の配筋

(a) 壁の交差部及び端部の配筋

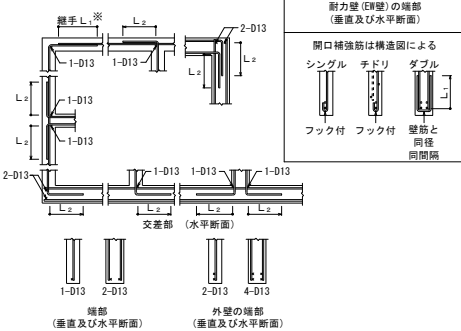


図4.2 壁の交差部及び端部の配筋

4.4 壁の開口部補強

- (a) 壁の開口部の補強筋は、構造図による。
(b) 壁開口部補強筋の定着長さは図4.3による。
(c) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

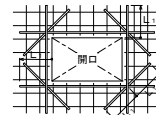


図4.3 壁開口部補強筋の定着長さ

4.5 壁の打増し補強

壁の打増し補強は、構造図による。

4.6 パラベット

(a) コンクリート厚さ、縦筋、横筋の径及び間隔は構造図による。

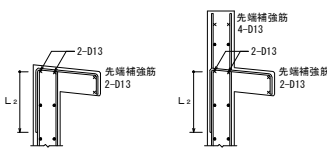


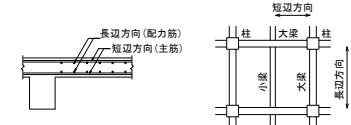
図4.5 パラベットの配筋

5節 スラブの配筋

5.1 スラブの配筋

(a) 一般事項

- (1) 土間スラブ下の砂利地層厚さ及び持コンクリート地層厚さは、構造図による。
(2) 土間コンクリート補強筋の配筋及びコンクリート厚さは、構造図による。
(3) スラブの基準配筋は図5.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



- (注) 1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
2. 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。
図5.1 スラブの配筋

5.2 スラブ筋の定着及び受け筋

- (a) 定着長さ及び受け筋は、図5.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図5.3により梁内に定着する。



図5.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その1）

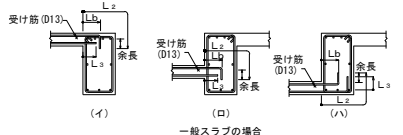
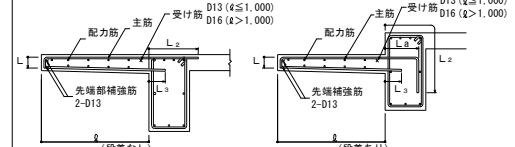


図5.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その2）

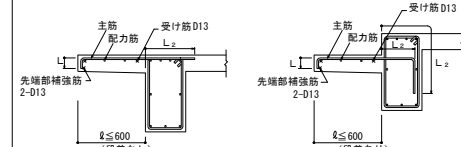
5.3 片持スラブの基準配筋

- (a) 片持スラブの基準配筋（CS形）は、図5.4及び図5.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



- (注) 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図5.4 片持スラブの配筋（ℓ>600の場合）



- (注) 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図5.5 片持スラブの配筋（ℓ≤600の場合）

伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事（その5）	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市伊原間カンニン250-7	図面名称	現況：鉄筋コンクリート構造配筋標準図（3）
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	MOSCALE
		図面番号	S—04
構 要	<div> <div>設 名 称</div> <div>有限会社 朝吹設計事務所</div> </div> <div> <div>資 格 者 氏 名</div> <div>管理建築士 朝吹 一郎</div> </div> <div> <div>計 登 録 番 号</div> <div>1級建築士 第 114962 号 登録番号 第 133-1792 号</div> </div> <div> <div>所 在 地</div> <div>沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32</div> </div>		

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)

5.4 片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋 ※S-07(10)参照

5.5 スラブの開口部の補強

(a) スラブ開口部の補強は構造図による。

(1) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、図5.7により、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13($\phi=2L1$)シングルを上下筋の内側に配筋する。

(2) スラブの開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を縦や横に曲げることににより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

図5.7 スラブ開口部の補強配筋

5.6 出隅部及び入隅部の補強

(a) 屋根スラブの出隅及び入隅部

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図5.8により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

図5.8 出隅及び入隅部の補強配筋

(b) 片持スラブの出隅部

(1) 補強の配筋は構造図による。配筋方法は、図5.9による。

(2) 出隅受け部分（図5.9の斜線部分）の補強筋は構造図による。

(注) $\phi1 \geq \phi2$ とする。

(注) 1. $\phi1 \geq \phi2$ とする。
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁にL1定着する。

図5.9 片持スラブ出隅部の補強配筋

5.7 スラブの打継ぎ補強等 ※S-07(5)参照

5.8 段差のあるスラブの補強 ※S-07(8)参照

6節 階段の配筋

6.1 片持スラブ形階段の配筋

(a) 片持スラブ形階段の基準配筋は、表6.1及び図6.1により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表6.1 片持スラブ形階段の基準配筋

配筋図	
配筋図	

(注) 1. 片持スラブ形階段を受ける壁配筋は、構造図による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を超えてから壁に下ろす。
3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、 $\phi S-02$ 、表4の L_{d2} とする。

図6.1 片持スラブ形階段配筋の定着

6.2 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

(a) 二辺固定スラブ形階段の基準配筋は、図6.2及び図6.3により、寸法及び配筋種別は構造図による。

図6.2 二辺固定スラブ形階段配筋（その1）

図6.3 二辺固定スラブ形階段配筋（その2）

(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

7. 1 梁貫通孔の配筋

(1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1による。

(2) 孔の径は、梁せいみの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

(3) 孔の上下方向の位置は梁せいみ中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より $0/3$ (0は梁せいみ)の範囲には設けててならない。

(4) 孔は、柱面から、原則として、1.50以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。

(5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。

(6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

(7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図7.2による。

(8) 孔の径が梁せいみの1/10以下、かつ、150mm未満のもの (軽微な開口) で鉄筋を緩やかに曲げることでより開口部を避けて配筋できる場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。

(9) 溶接金網の余長は1倍半以上とし、突出しは10mm以上とする。

(10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋-13φのリング筋を取り付ける。

なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。

(11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

図7.1 梁貫通孔補強筋の名称等

図7.2 補強筋の定着長さ

7. 2 梁貫通孔の補強形式

梁貫通孔の補強は、特記なき既製品によるものとし、表7.1による場合は、監理者と協議して配筋種別を決定すること。

(a) 梁貫通孔の補強形式は表7.1により、配筋種別は構造図による。

表7.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

(a) 控壁の配筋

図7.3 控壁の配筋(水平、垂直とも)

(b) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

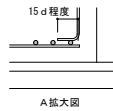
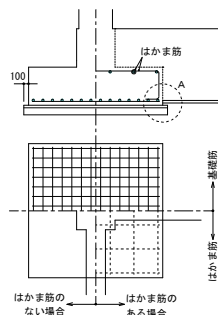
図7.4 壁付き土間コンクリートの補強配筋

工事名称	石垣北部地区建築工事（その５）	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カニコ250-7	図面名称	地盤等 地盤コンクリート構造配筋標準図（４）
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	NOSCALE
		図面番号	S—05
摘 要		設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所
		資格者氏名	管理建築士 朝吹 一也
		登録番号	1級建築士 第 114962 号 登録番号 第 133-1792 号
		者 所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32

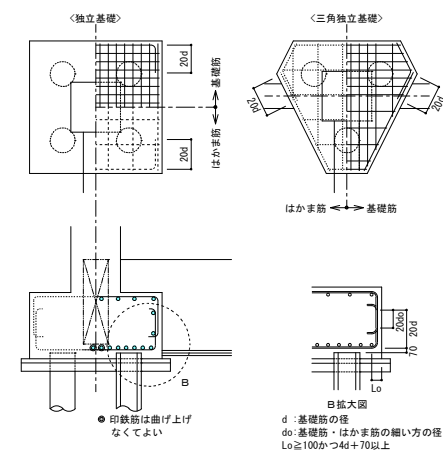
雑配筋標準図(1)

1. 基礎配筋

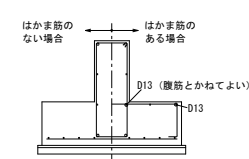
(a) 独立基礎 ① 直接基礎



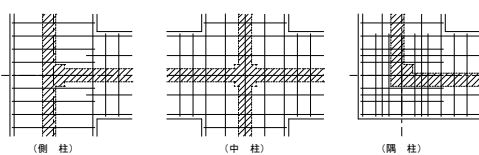
② 杭基礎



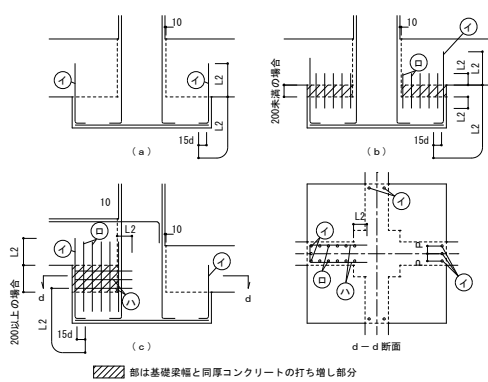
(b) 連続基礎



・交差部のベース筋



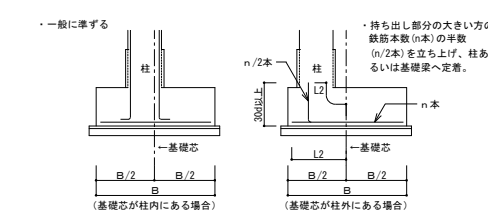
1. 2. 基礎と基礎梁の接合



補強筋：基礎と基礎梁を一体とするために補強する。その詳細は設計図書に特記する。
(a) では 鉄筋は一般に基礎梁の幅に応じて 2-4-D16 とする。
(b) では 鉄筋は一般に基礎梁の幅に応じて 2-4-D16 とする。
(c) 鉄筋は基礎梁のあばら筋と同径・同間隔に配筋する。
(c) 鉄筋は基礎梁のあばら筋と同径・同間隔に配筋する。特記なき下表による。

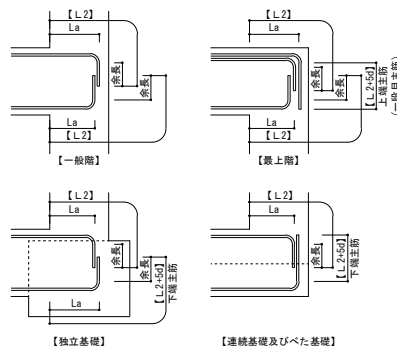
基礎幅	b ≤ 300	300 < b ≤ 400	b > 400
① 配筋	2-D16	3-D16	D16, P ≤ 150mm
② 配筋			基礎梁のあばら筋と同径・同間隔とする。
③ 配筋			D13@200

1. 3. 偏心基礎



2. 梁主筋の柱内折曲げ定着長さ

- 特記なき梁主筋の柱内折曲げ定着長さは、【L2】d 以上とする。
- 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLaは、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

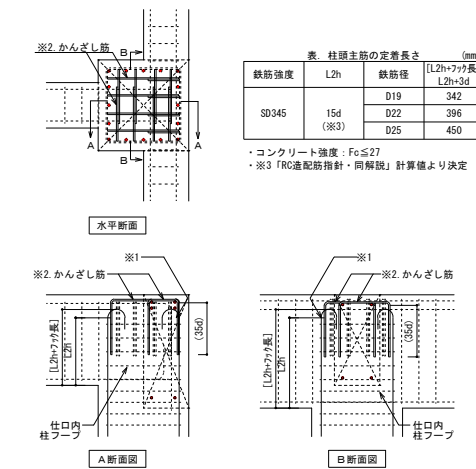


【独立基礎】

【連続基礎及びべた基礎】

3. 1. 柱頭(最上階)の配筋

- 柱頭部主筋を直線定着とした場合の納まり
(1) 一般納まり

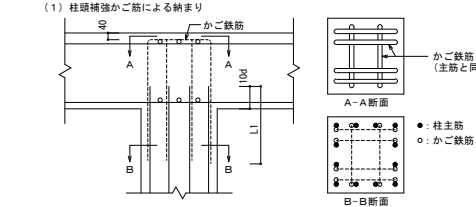


鉄筋強度	L2h	鉄筋径	(L2h+フック長) L2h+3d
SD345	15d (※3)	D19	342
		D22	396
		D25	450

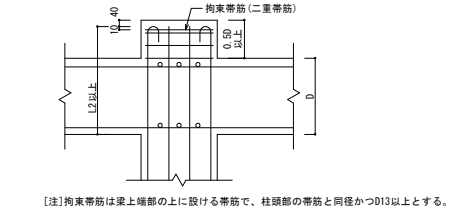
- ・コンクリート強度：F_o ≤ 27
- ・※3「RC造配筋指針・同解説」計算値より決定

※1 柱頭部主筋は全数フック付きで定着長さ(L2h)を確保し、梁上端筋の下側まで延長すること。
※2 かんざし筋は、あばら筋と同径・200以下とする。

- 柱頭部主筋の定着長が不足した場合の納まり
(1) 柱頭補強かご筋による納まり



- 柱を突出させた場合の納まり



【注】拘束帯筋は梁上端部の上に設ける帯筋で、柱頭部の帯筋と同径かつD13以上とする。

3. 2. 接合部(一般階)の配筋

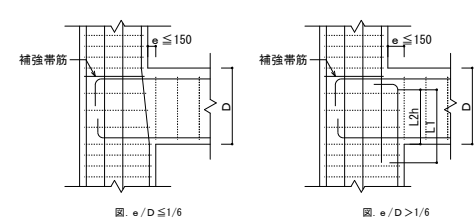


図. e/D ≤ 1/6

図. e/D > 1/6

【注】eの最大値は、原則として、150mmとする。

4. 柱梁の打増し補強

・打増し寸法が(70mm)未満の場合、補強は不要とする。

- 柱の打増し補強は、下図、下表による。下表を超える打増しの場合は、特記による。
なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

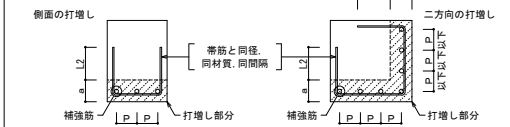
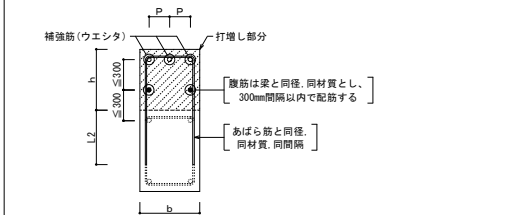


表. 柱の打増し部の補強筋	補強筋
打増し幅 a	70mm ≤ a ≤ 200mm
	P ≤ 250mm - D16
	200mm < a ≤ 300mm
	P ≤ 200mm - D※

※は、柱主筋の1サイズ下の径とする。

- 梁の打増し補強は、下図、下表による。下表を超える打増しの場合は、特記による。
なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。
(1) 梁上端の打増し補強(梁下端の打増ししも同配筋要領とする)



- 梁側面、二方向の打増し補強

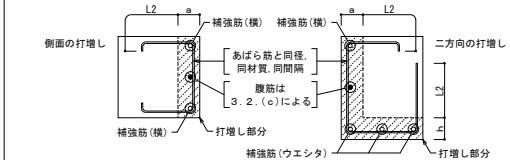
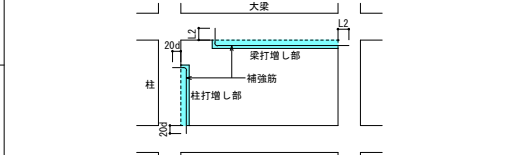


表. 打増し部の補強筋(横)	補強筋(横)
打増し幅 a	70mm ≤ a ≤ 200mm
	1-D16
	200mm < a ≤ 300mm
	2-D※

※は、梁主筋の1サイズ下の径とする。

表. 打増し部の補強筋(ウエシタ)	補強筋(ウエシタ)
打増し高 h	b ≤ 300
	300 < b ≤ 400
	b > 400
	70mm ≤ h ≤ 200mm
	2-D16
	3-D16
	200mm < h ≤ 300mm
	2-D※
	3-D※

- 打増し部補強筋の定着長さ



伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市伊原間カンニン250-7	図面名称	増配筋：雑配筋標準図(1)
縮尺	縮尺	縮尺	1/200
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	図面番号	S-06
構 要	設 名 称 有限会社 朝吹設計事務所 資 格 者 氏 名 管理建築士 朝吹 一郎 登 録 番 号 1級建築士 第 114962 号 登録番号 第 133-1792 号 所 在 地 沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32		

有限会社 長崎総合設計 長崎 安一
 一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
 一級建築士 第 141385号
 構造設計一級建築士 第 9036号

雑配筋標準図（2）

5. スラブの打継ぎ補強等

- a) 土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

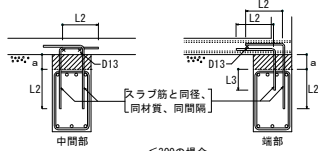


図9.10 打継ぎ補強配筋

- b) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋
土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は図9.11による。

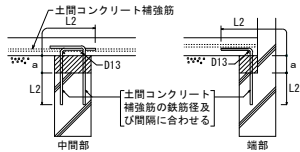


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

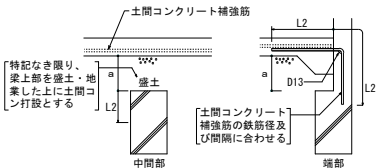


図9.12 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

6. 大走り等スラブ配筋

- a) 大走り ※土間コン配筋は、構造図による。

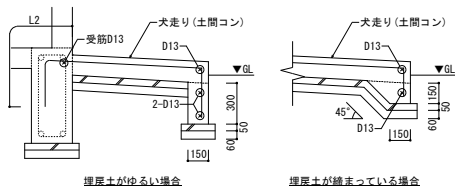
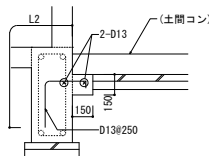
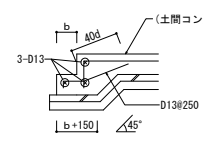


図9.12 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

- b) 土間スラブ受け



- c) スラブ下り



7. 土間補強

- a) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋
1) RC及びRC基礎と土間コンクリートの取り合いは、下図による。
2) 壁厚が150mmを超える場合、特記による。

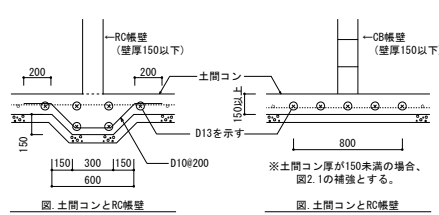


図9.10 打継ぎ補強配筋

- b) 差場ビット土間配筋図
1) 差場下のスラブ厚は、土間コンまたは土間スラブと同厚とする。

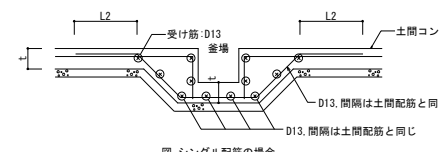


図9.10 打継ぎ補強配筋

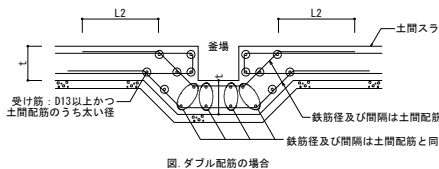


図9.10 打継ぎ補強配筋

8. 段差のあるスラブ・小梁補強

- a) 段差のあるスラブの補強配筋

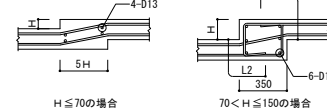


図9.10 打継ぎ補強配筋

- b) スラブフカシ配筋

- 1) フカシ形状は構造図による。
2) 特記なきフカシ幅Bは、5H以上とする。

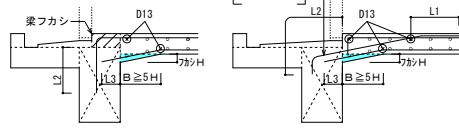
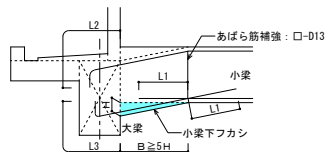


図9.10 打継ぎ補強配筋

- c) 段差のある小梁配筋

- 1) フカシ形状は構造図による。
2) 特記なきフカシ幅Bは、5H以上とする。



9. 片持ちスラブ配筋

- a) 片持ちスラブ配筋

- 1) 特記なき片持ちスラブの基準断面および配筋は、下図による。
2) 片持ちスラブの出が600mmを超える場合、断面および配筋は構造図による。
3) 先端の折り曲げ長さは、スラブ厚よりかなり厚さを除いた長さとする。
4) スラブに段差がない場合、主筋を引き通してスラブに定着してよい。

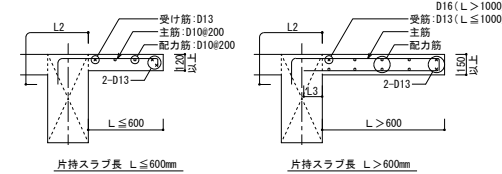


図9.10 打継ぎ補強配筋

- b) 片持ちスラブ出隅部補強
1) 出隅部手すり等にスリットを設けた場合のスラブ補強筋図は、下図による。
※1. 補強筋は短辺スラブ上端筋の間に配筋する。
※2. 手すり等のスリットの有無は、構造図による。

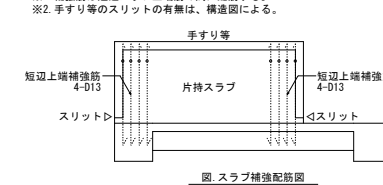


図9.10 打継ぎ補強配筋

- 2) 出隅部手すり・バラベットの等々にスリットを設けない場合の配筋図は、下図による。
※1. 手すり・バラベットの横筋定着長は、壁筋と同一とする。

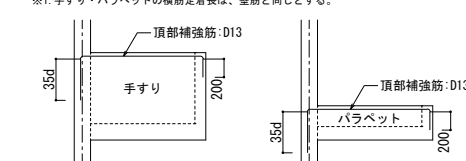


図9.10 打継ぎ補強配筋

10. 手すり・バラベットの等配筋

- a) バラベットの等配筋

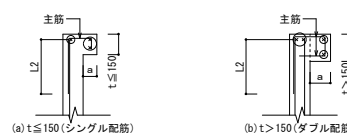


図9.10 打継ぎ補強配筋

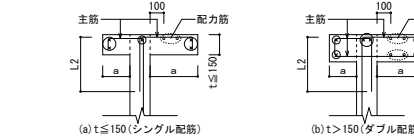


図9.10 打継ぎ補強配筋

表 返しスラブ配筋	主筋	配筋筋
a	主筋	配筋筋
a ≤ 0.25m	D10@150	-
0.25m < a ≤ 0.60m	D10@150	D10@200

※ 〇：補強筋D13を示す。

b) テスリ・バラベットの等立り壁配筋

- 1) 手すり・バラベットの等配筋図は、下図による。
2) 手すり・バラベットの等が1.5mを超える場合は、特記による。

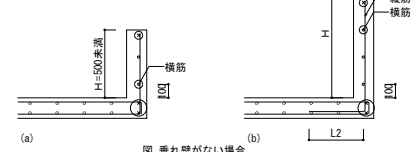


図9.10 打継ぎ補強配筋

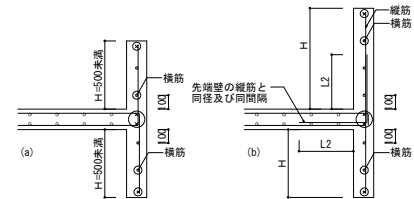


図9.10 打継ぎ補強配筋

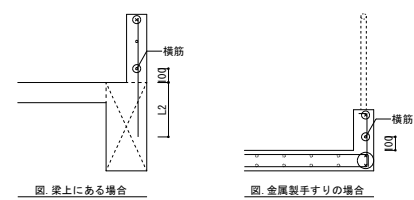


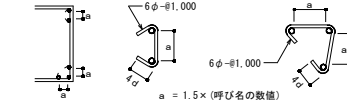
図9.10 打継ぎ補強配筋

表 先端壁配筋	縦筋	横筋
H	縦筋	横筋
H ≤ 1.2m	D10@150	D10@150
1.2m < H ≤ 1.5m	D10@150	D10@150

※ 〇：補強筋D13を示す。

11. 柱梁配筋（柱寄せ筋、ハンチ梁、梁主筋位置）

- a) 柱寄せ筋（二筋筋）の保持



- b) ハンチ梁のハンチ起点のあばら筋補強

主筋	ハンチ勾配 (1/n)					
径	1/3	1/3.5	1/4	1/4.5	1/5	
D19	①-D13					①-D13
D22						
D25						
D29	②-D13					③-D13
D32						③-D13




- c) 梁主筋の位置



図9.10 打継ぎ補強配筋

伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事（その5）	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市伊原間カンニン250-7	図面名称	増設部：雑配筋標準図（2）
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	NOSCALE
図面番号	S-07	図面番号	S-07
設 名 称	有明会社 朝吹設計事務所	設 名 称	有明会社 朝吹設計事務所
計 資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎	計 資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
登 録 番 号	1級建築士 第 114962 号	登 録 番 号	1級建築士 第 114962 号
書 所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32	書 所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32

有明会社 長崎設計 長崎 安一
一般建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
一般建築士 第 141385号
構造設計一般建築士 第 9036号

雜配筋標準圖 (3)

12. 機械基礎およびハト小屋等配筋

- 1) 機会基礎およびハト小屋等配筋図は、図4.1～図4.4による。
2) 各部材断面が図4.1～図4.4より大きくなる場合は、特記による。

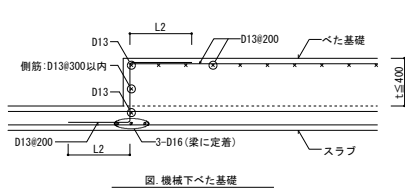


図. 機械下べた基礎

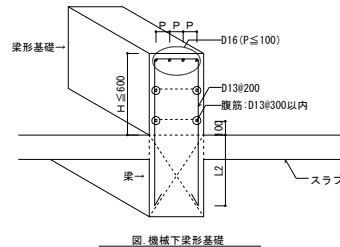


圖.機械下梁形基礎

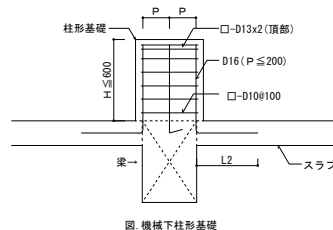
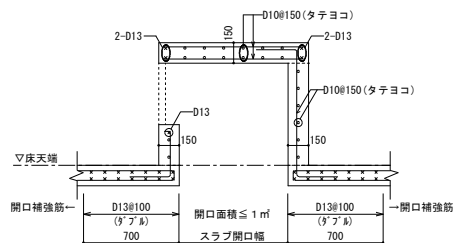


圖. 機械下柱形基礎

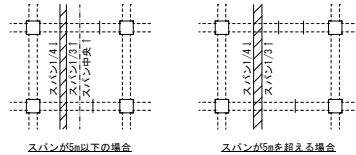


※スラブの開口補強筋要領は、S-04参照とする。
※開口周囲は上図より鉄筋で補強し、隅角部に斜め方向に2-D13シングルを上下筋の内側に配筋する。

図. ハト小屋・トッブライト等配筋図
(断面図)

13. コンクリート打継ぎ位置

- (a) 梁およびスラブの鉛直打継ぎ部
- ・打継ぎはできるだけ少なくし、応力の小さいところで打継ぐ。
 - ・各部材(梁、片持ち梁、小梁、スラブ)の付け根での打継ぎは避ける。
 - ・スパンが5m以下の場合、スパン中央付近又はスパンの1/3～1/4のところがよい。
 - ・スパンが5mを超える場合、スパンの1/3～1/4のところがよい。



- (b) 柱および壁の水平打継ぎ部
・スラブ、壁梁又は基礎の上端に設ける。

14. 地業の標準

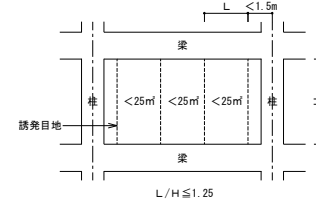
地盤・地業		表 地業の標準				捨コン	備考
		土 質	N 値	種 別	厚 (mm)		
構造部位	直接基礎床版下	岩盤 土丹	N ≧ 10	地はだ	100	50	※1
		砂礫 砂	N < 10	砂 利	100	50	
			N ≧ 10	砂 利	60		
		シルト 粘土 ローム	N < 2	砂 利	150	50	
			N ≧ 2	砂 利	60		
	杭基礎床版下	-	-	砂 利	60	50	
	基礎梁下	-	-	砂 利	60	50	※1
土間コンクリート下	砂礫 砂	-	-	砂 利	-	-	※2
	硬質 土等	-	-	砂 利	60	-	
	-	-	-	-	-	-	
	土間床版下 (溝スラブ)	-	-	砂 利	60	50	※3
	玄関ポーチ下等下	-	-	砂 利	60	-	※4

※1. 地盤の状態によっては砂利地業を取り止めてもよい。
 ※2. 地業の上にポリエチレンシート厚0.15を敷く。
 ※3. 配筋の程度に支障が無ければ捨てコンクリートを取り止めてもよい。
 ※4. 土間床版形式とする場合は、上記(土間床版下)による。

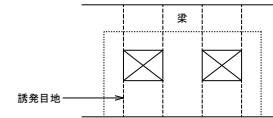
15. 誘発目地

コンクリートの主に乾燥収縮などによるひび割れについて、誘発目地の設置を推奨する。
誘発目地の設置は、監督職員と協議のうえ決定することとする。

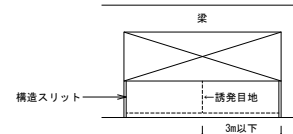
- (a) 壁
- 1) 周囲を柱・梁・誘発目地で囲まれた1枚の壁の面積は25㎡以下とし、1枚の壁の面積が小さい場合を除いて、その辺長比(L/H)は1.25以下を原則とする。



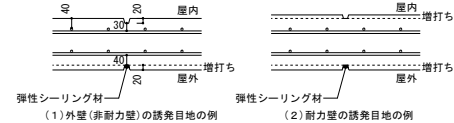
- 2) 開口部は下図のように開口端部に接するように目地を設ける。



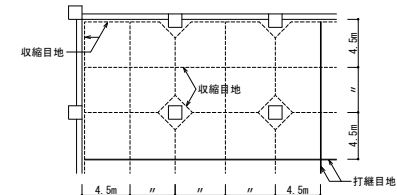
- ### 3) 構造スリットと誘発目地



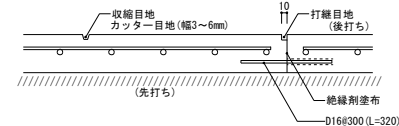
- #### 4) 壁の誘発目地の例



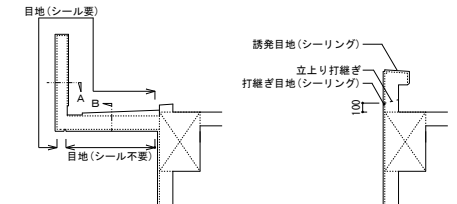
- (b) 土間コンクリート
- 1) 1日の施工面積から決まる打継目地と、不規則にひび割れが生じないようにコントロールする収縮目地を適宜に設ける。



- ## 2) 土間コンクリートの誘発目地の例



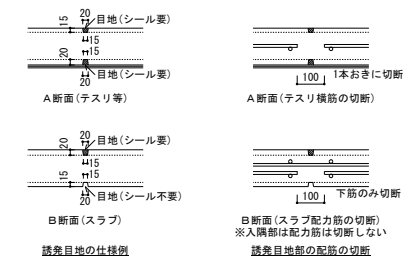
- 1)誘発目地の設け方



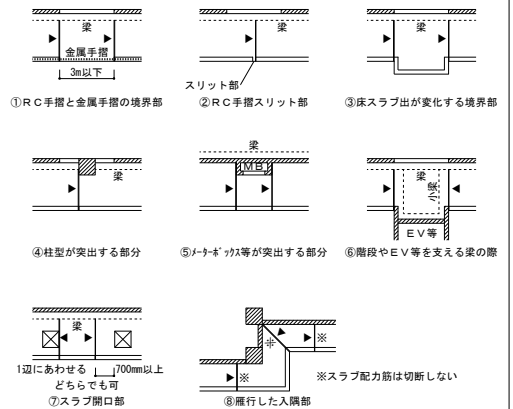
テスリ等誘発目地の設け方

パラベット誘発目地の設け方

- ## 2) 誘発目地



- 3) 誘発目地の設置位置
誘発目地(▼)の設置間隔は、3m以下とする。



誘発目地の設置位置(平面図)

伊良部正人、大浜雄樹、野底賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	堆肥舎：雑記筋標準図(3)
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	NO SCALE
		図面番号	S—08
摘 要		設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所
		資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
		登録番号	1級建築士 第 114962 号 登録番号 第 133-1792 号
		所在地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

ボーリング柱状図

調査名 石垣北部地区建築設計委託業務(野底)

ボーリング№

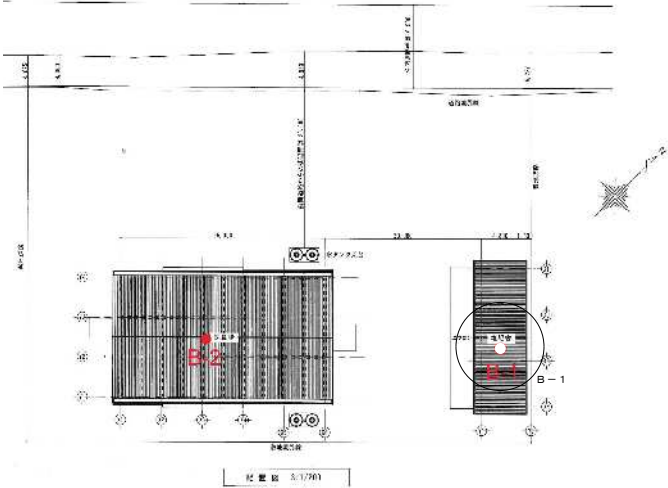
事業・工事名

シート地

ボーリング名	B-1	調査位置	石垣市宇伊原間カンニン250-7	北緯	
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	調査期間	令和 5年 3月 28日 ~ 5年 3月 28日	東経	
調査業者名	株式会社 調査 電話 (0980-82-2297)	主任技師		ボーリング責任者	崎浜 秀三
孔口標高	角 180° 上 90° 下 0°	方 北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	YBM-05DA-2
総掘進長	7.00m	度	向	試錐機	ハンマー 落下用具
				エンジン	NS-60
					ポンプ
					半自動
					カーツ

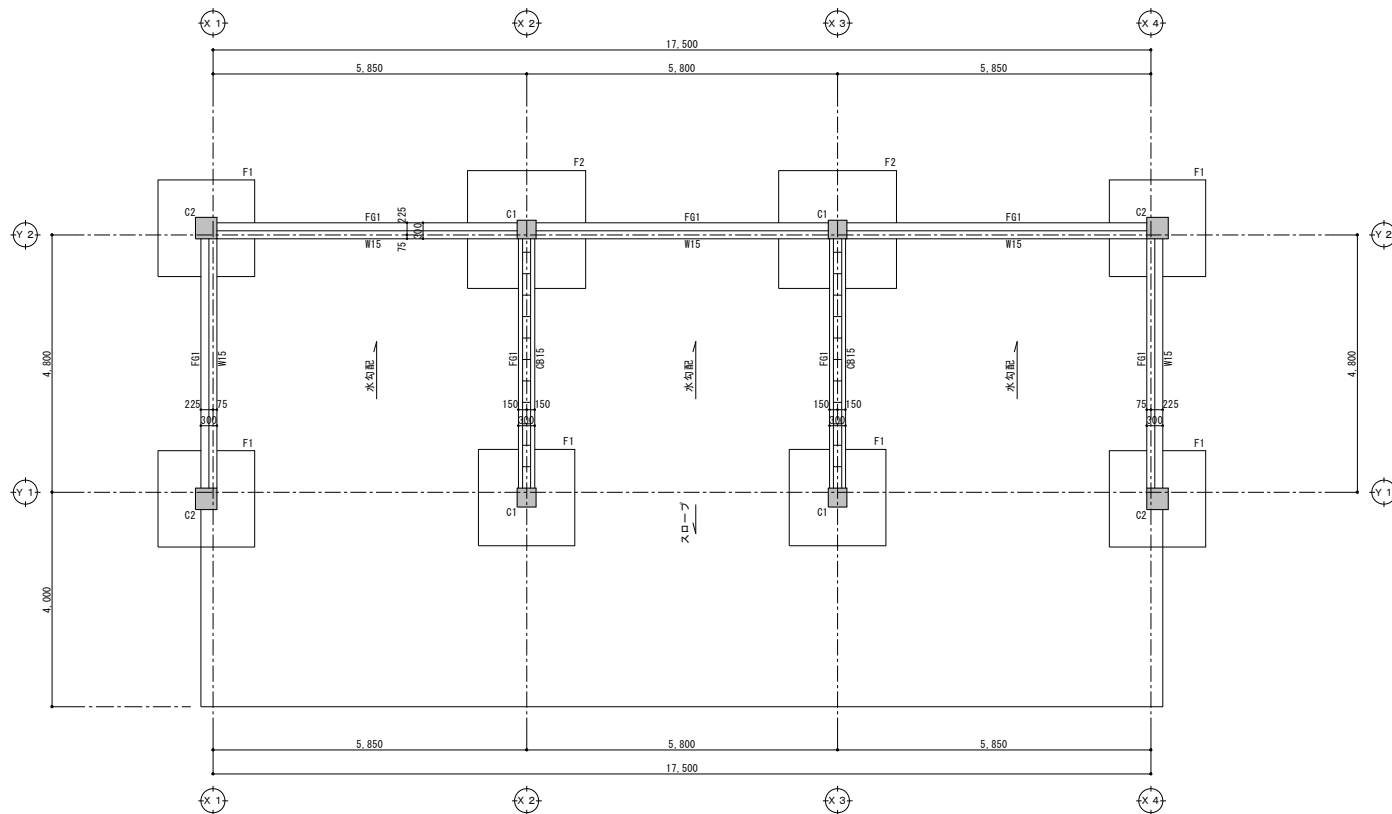
標高	層厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位	標準貫入試験	原位置試験	試験採取	室内試験	掘進
八	高	厚	度	状	区	密	稠	事	(m)	度	度	度	度	月
(m)	(m)	(m)	(m)	図	分	調	度		(m)	度	度	度	度	日
1								表層、草根及び水根を混入する粘土	1.15	2	3	5		
2								全層に砂の混入が見られるが所々に石灰岩及び細粒砂の混入を認めている。	1.45	3	2	2		
3								深度4.00m付近はやや軟弱となっている。	2.15	4	2	1		
4									2.45	4	2	1		
5	4.70	4.70							3.15	4	2	1		
6									3.45	4	2	1		
7	2.35	7.35							4.15	4	2	1		
8									4.45	4	2	1		
9									4.75	4	2	1		

調査位置図



伊良部 正人、大浜 雄樹、野底 賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事(その5)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	増設倉：柱状図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮尺	A1:- A3:-
		図面番号	S-09
摘要		設計者	有限会社 朝吹設計事務所
		資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
		登録番号	1級建築士 第 114962 号
		所在地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32

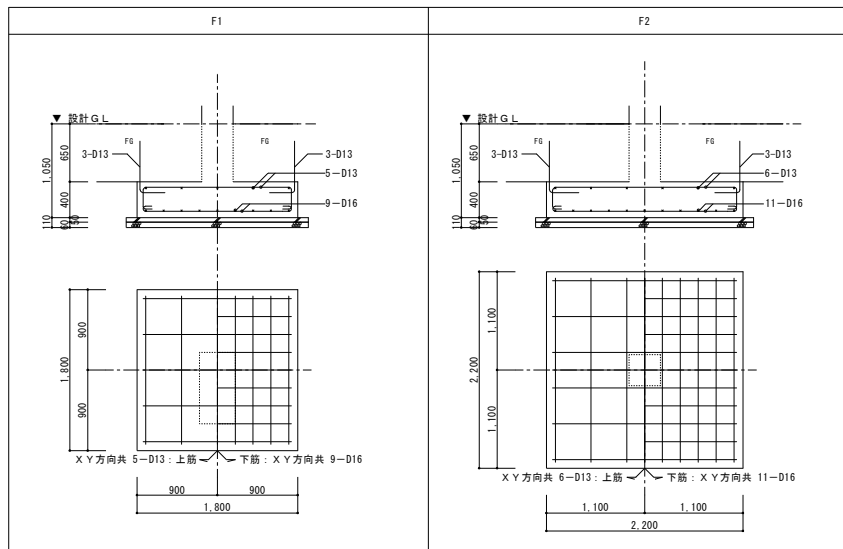


基礎伏図

A1 : 1/50 A3 : 1/100

基礎詳細図

A1 : 1/30 A3 : 1/60



地中梁リスト

A1 : 1/30 A3 : 1/60

符 号	F61
位 置	全断面
断面	
b x D (mm)	300 x 650
上端筋	1段筋 2-D19 2段筋 2-D19
下端筋	2段筋 2-D19 1段筋 2-D19
あばら筋 (mm)	□-D10-φ200
腹筋	2-D10
幅止筋	▽7-D10 @1,000

壁リスト

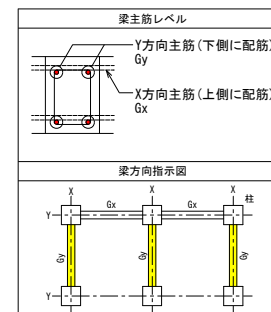
A1 : 1/30 A3 : 1/60

W15	CB15
タテ筋 D10-φ150	タテ筋 D10-φ400
ヨコ筋 D10-φ150	ヨコ筋 D10-φ400

柱リスト

A1 : 1/30 A3 : 1/60

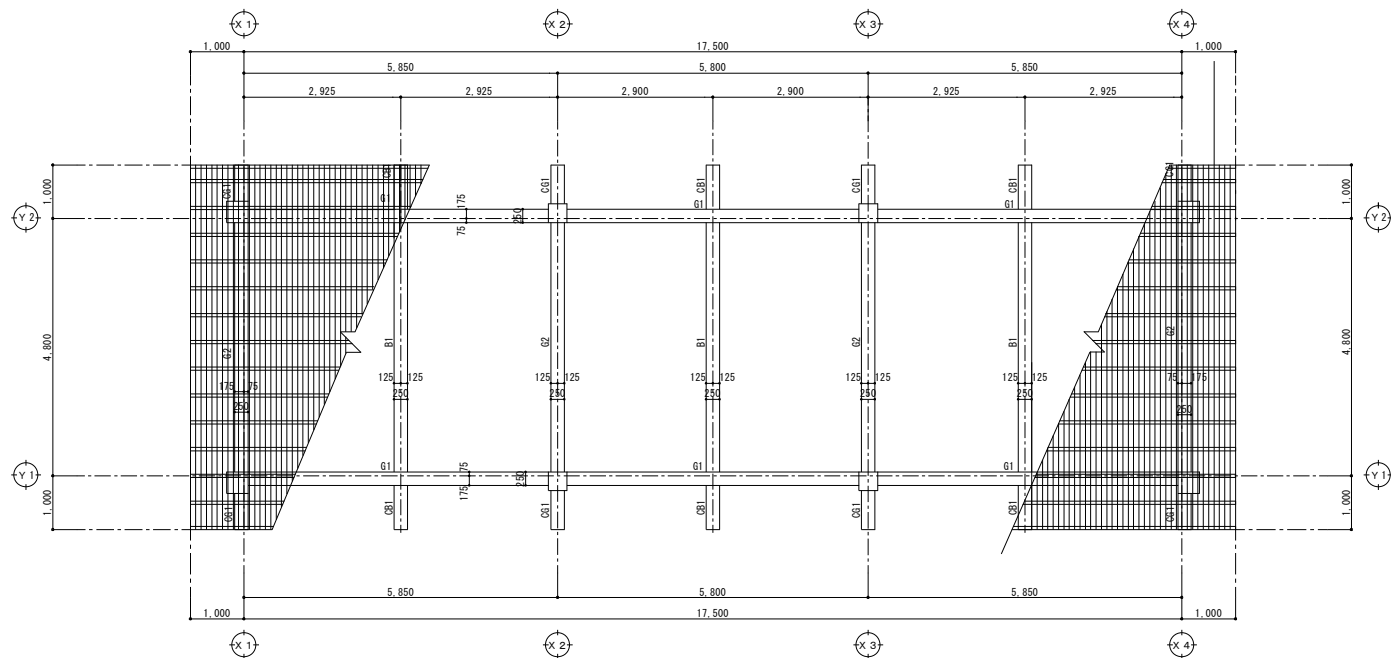
符 号	C1	C2
断面	全断面 	全断面
X x Y	350 x 350	400 x 400
主筋	8-D19	12-D19
フープ	□-D10 @100	□-D10 @100



使用材料
土間コンクリート・配筋
・厚100mm土間コンクリート
・厚100mmクラッシュラン
・溶接金網 6x150x150

伊良部 正人、大浜 雄樹、野底 賢二

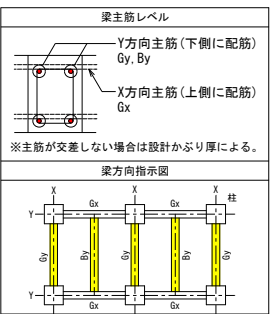
工事名称	石垣北部地区建築工事 (その他)	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	雄記舎・基礎伏図・基礎詳細図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	A1:図示 A3:図示
構 要		図面番号	S-10
設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所	資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
計 登 録 号	1級建築士 第 114962 号	登録番号	第 133-1792 号
者 所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32		



R 階 梁 伏 図 S=1：50

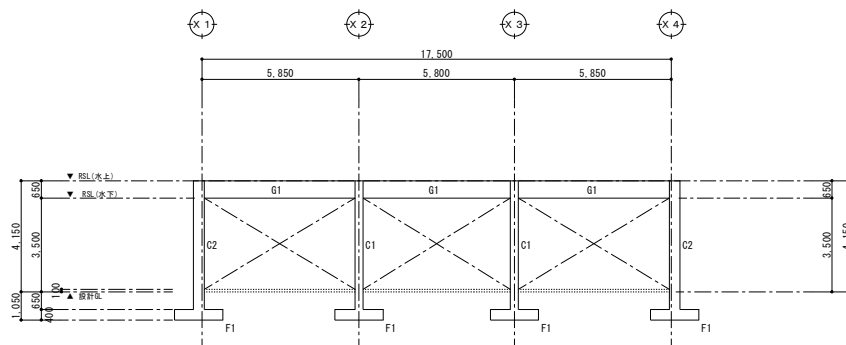
R階梁リスト 1／30

符 号	RG 1	RG 2	CG 1	B 1	CB 1
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面
断 面					
B × D	250×650	250×650	250×300	250×500	250×300
上 端 筋	1 段筋 2-D16 2 段筋 2-D16	2-D16 —	2-D16 —	2-D16 —	2-D16 —
下 端 筋	1 段筋 2-D16 2 段筋 2-D16	— 2-D16	— 2-D16	— 2-D16	— 2-D16
ス ー パ ー	D10-@200	D10-@200	D10-@150	D10-@200	D10-@150
腹 筋	2-D10	2-D10	—	—	—
幅 止 筋	—	—	—	—	—

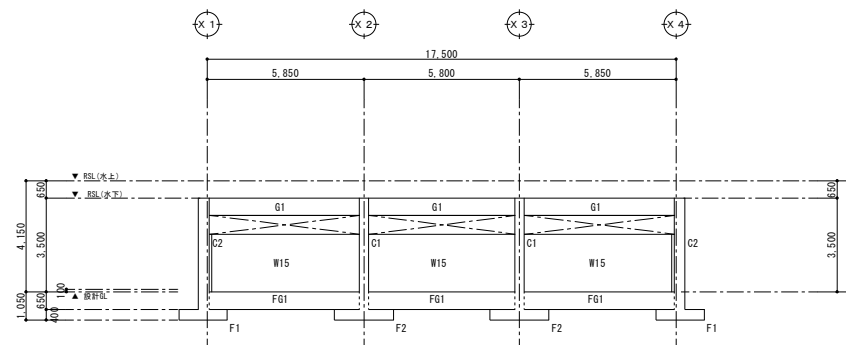


伊良部 正人、大浜 雄樹、野底 賢二

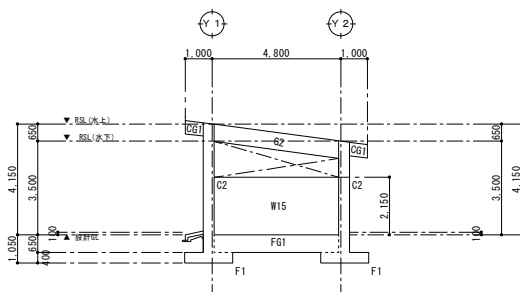
工事名称	石垣北部地区建築工事（その5）	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	増設倉：R階段伏図・各リスト図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	A1:1/30・50 A3:1/60・100
摘 要		図面番号	S—11
		設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所
		資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
		登録番号	1級建築士 第 114962 号 登録番号 第 133-1792 号
		所 在 地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32



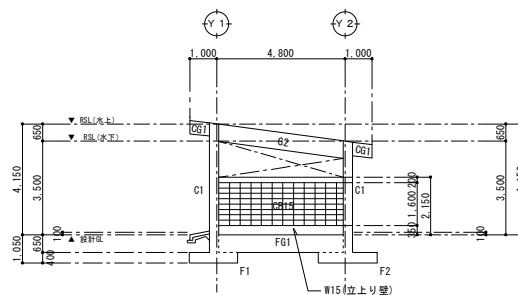
Y1 通り軸組図 S=1/100



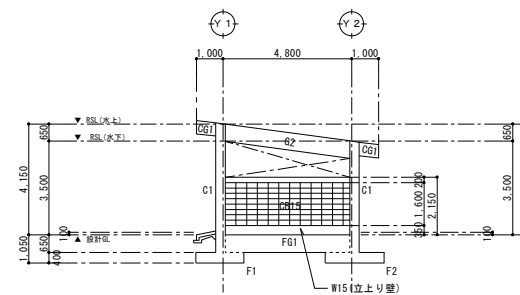
Y2 通り軸組図 S=1/100



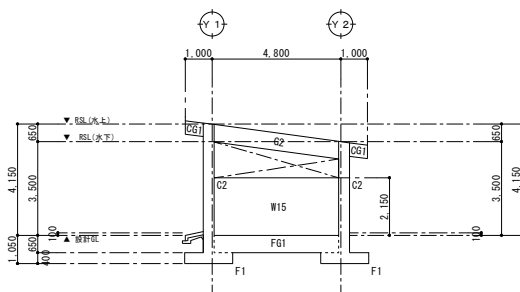
X1 通り軸組図 S=1/100



X2 通り軸組図 S=1/100



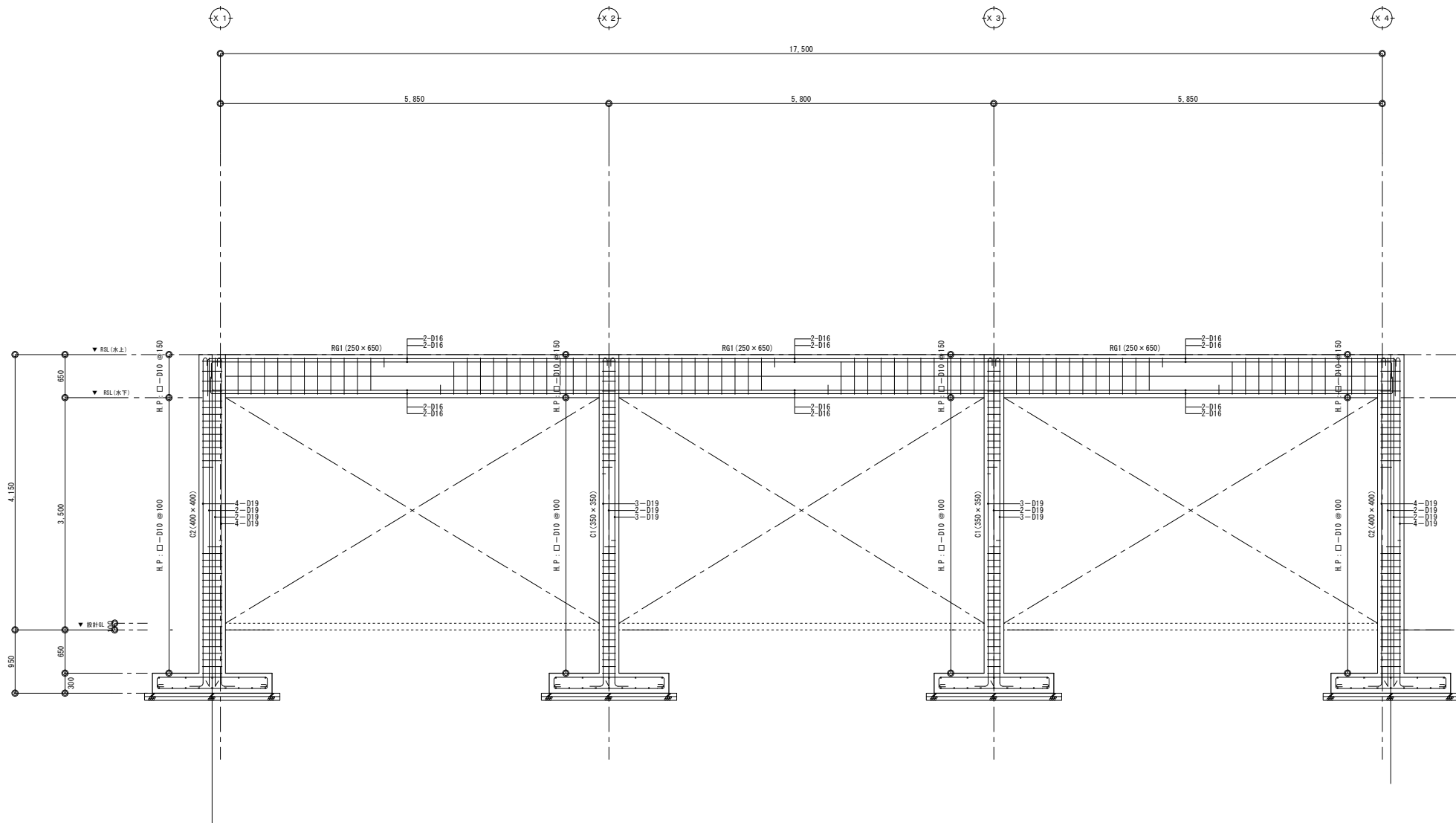
X3 通り軸組図 S=1/100



X4 通り軸組図 S=1/100

伊良部 正人、大浜 雄樹、野底 賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事（その5）	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	増設倉：軸組図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	A1:1/50 A3:1/100
		図面番号	S-12
構 要		設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所
		資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎
		登録番号	1級建築士 第 114962 号
		所在地	登録番号 第 133-1792 号
			沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32



Y1 通り軸組図 S=1/30

伊良部 正人、大浜 雄樹、野底 賢二

工事名称	石垣北部地区建築工事（その5）	工事年度	令和 7 年度
工事場所	沖縄県石垣市宇伊原間カンニン250-7	図面名称	堆肥舎：架構詳細図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	A1:1/30 A3:1/60
構 要		図面番号	S-13
設 名 称	有限会社 朝吹設計事務所		
資格者氏名	管理建築士 朝吹 一郎		
登録番号	1級建築士 第 114962 号		
所 在 地	登録番号 第 133-1792 号		
	沖縄県石垣市浜崎町2丁目3番地32		